

理 事 会 議 事 録

日 時：2000年1月22日（土） 11時00分～15時00分

場 所：国立天文台 会議室

出席者：尾崎、家、小山、柴田、大石、立松、紀伊、吉川、
上野、有本、沢、大谷、山岡、
橋本、牧島 出席者15名 欠席者 なし

議事に先立ち、署名人を選出した
議長：尾崎洋二
署名人：柴田一成、大石雅寿

議事の経過及び結果

1. 前回（1999年10月9日）の理事会議事録が報告され、承認された。
2. 1999年11月から12月にかけて日本学術会議次期会員候補及び2000-2003年度日本天文学会評議員選挙が実行され、日本学術会議第18期会員候補として池内了氏を推薦すること、また、2000-2003年度の新評議員が決定されたことが報告された。これに関連して議論があり、次回以降は、選挙管理委員会が推薦人の推薦文を添付する場合、推薦人の名前、及び、日本学術会議会員候補者推薦内規に従って送付していることを明記した書面を添付して、選挙管理委員会が特定の候補者を推薦したと誤解されないようにする措置をとるよう、選挙管理委員会に依頼することとした。
3. 大石庶務理事より1999年度天文学会事業報告があり、質疑応答の後承認された。これに関連して天体発見賞の対象となる発見期間、選考時期、表彰時期のずれについて山岡理事より質問があり、意見交換を行ったのち細則の見直しを天体発見賞選考委員会などで検討することとなった。
4. 立松会計理事より1999年度収支決算報告及び監査報告があり、質疑応答の後承認された。PASJの出版社がElsevierからUAPに変更となったためにPASJ関係で予算額と決算額に大きな差が生じたこと、PASJの特集を組むと会計上有益であることなどが報告された。またJCBによる自動引き落としのキャンペーンを適宜実行することになった。また、監査報告もあり、正常に運営されていることが確認された。
5. 新入正会員の名簿が紹介され、14名全員の入会が承認された。
6. 改訂を進めている各委員会内規の改定案が大石庶務理事より提示され、説明があった。各委員会の条文の書き方などの整合性を取る必要があるが、基本的に内規改定・制定内容を承認した。その後沢理事より、公開講演会を天文教育委員会が担当することに対して疑義が出され、担当理事を理事会で議論して欲しいとの要望が表明された。議論の結果、年会実行委員会と教育担当理事が協調して公開講演会を実施してゆくことが確認された。
7. PASJの運営状況、投稿料半額措置の期間について 有本理事より資料が提出され説明があった。PASJの投稿数は大幅に増加し、既に150報と近年の中で最高を記録している。その理由としては、電子メールによって投稿できること、投稿料を半額にする期間を設けたこと、日本の天文雑誌を存続させたいこと、が挙げられた。2000年度には電子版PASJの本格運用を開始し、年間1000から1100ページを目標としている。新たに編集委員として岩手大学の花見氏が推薦され、承認された。投稿料半額化キャンペーンは当初の方針通り2000年12月31日で終了することが示され、承認された。投稿数の増加に伴って編集委員の負担が増加しているのので、著者に手渡すマニュアルを整備してはどうかとの意見が出された。
8. 2000年春季年会の準備状況について牧島理事より報告があった。4月3-5日が開催期間となる。セッション用の8会場は確保できているが講演数（393）から考えると6会場で済む見込みである。ポスター会場は御殿下記念館となる。続いて吉川理事より年会実行委員会の報告があった。全講演数は393、うちポスターは190である。ジュニアセッションでの発表は17件あり、セッションの時間は2時間とす

る。また特別講演は東大の須藤靖氏とTytler氏にお願いし「宇宙論」をテーマとして行なう。今後の講演では、筆頭著者と発表者が異なっても受理することを検討していることが報告され、その方針が了承された。また記念講演と総会はB会場で開催することを確認した。

9. その他

- (1) 2001年度の年会開催日について下記のように内定した
2001年秋季年会（西はりま地区）：2001年10月4-6日
2001年春季年会（千葉）については2001年3月中（26-28を第一希望）を理事会としては希望し、4月の場合は2-4が唯一の解であることを庶務理事から千葉大学に伝えることとなった。
- (2) 2000年秋の年会（伊勢崎市）の準備状況について橋本理事より報告があった。ぐんま天文台へのエクスカージョンを考えているとのことである。
- (3) 次回の理事会・評議員会の予定を以下のように決定した。
理事会　：2000年4月5日（水）
評議員会：2000年4月4日（火）
- (4) 次期事務長に内定している東条氏の勤務開始日を2000年7月1日にすることを決定した。
- (5) 「独立行政法人化」に関する学会声明文を社会にアピールするため、声明文を各新聞社、通信社等マスコミ各社、文部省、学術会議等に送付することを池内氏と相談のうえ検討することとなった。
- (6) 古在由秀氏より学会から各賞への推薦を増やすべきだとの理事長への要望が届いたことが報告された。理事長・副理事長を中心に推薦数を増やすよう対応することとなった。
- (7) 加藤万里子氏から提出された夫婦別姓に関する文書の内容を確認した。重要な問題であることは認識されたが、理事会としては特にアクションはとらないこととした。
- (8) 上野理事より、天文月報編集委員として国立天文台の伊藤孝士氏を増員したといとの申し出があり、承認された。